

一般演題 2 O2-02

高気圧酸素治療を補助療法として行った壊死性筋膜炎の 1 例

○宮辺健太

牧田総合病院

【目的】

壊死性筋膜炎は、筋膜が主体となって感染が拡大し、患肢の皮膚壊死や多臓器不全を伴うことがある重症軟部組織感染症である。近年、患者数は増大傾向であり、昨年度の報告数は過去最多であった。我々は昨年度、7 件の壊死性筋膜炎の治療を行い、全例に HBO を補助療法として併用した。今回はその中でも、人食いバクテリアと呼ばれる、より重症化しやすい A 群 β 溶血連鎖球菌による壊死性筋膜炎の症例を経験したので報告をする。

【方法】

症例は 64 歳男性。蜂窩織炎の疑いで救急搬送となった。バイタルは血圧 107/96mmHg、脈拍 106 回/min、体温 38.2℃。右足背に水疱を伴い、下腿から足部にかけて発赤・腫脹・疼痛を認めた。主な血液検査所見では、軽度肝機能障害、腎機能障害、炎症の高値を認めた。血液培養と創部培養からは A 群 β 溶血連鎖球菌による壊死性筋膜炎と診断し、緊急デブリードマンを行った。術後から抗生剤治療、HBO（10 回）、連日の洗浄処置を行った。

【結果】

治療開始後、炎症の改善、血液培養と創部培養の陰性化、腎機能と肝機能の回復を認めた。デブリードマン後の創面は、入院後の約 1.5 ヶ月後には良好な肉芽が形成し、両側大腿部から分層植皮を行い創閉鎖した。術後 1 週間で植皮は生着し、感染の再燃もなく治癒した。

【考察】

壊死性筋膜炎の弊害としては、感染が重症であることや、皮膚の壊死が進行すること、デブリードマン後の創の面積が大きくなることが挙げられる。高気圧酸素下では、好中球の活動が高まり、殺菌作用を発揮するため、重症感染症の治療の一助になると考えられる。また、高気圧酸素下では血中溶解酸素量が増えるため、組織の虚血を改善し、壊死の進行を遅らせる可能性がある。さらに、高気圧酸素下ではコラーゲン合成が促進するため、創傷治癒を促す。壊死性筋膜炎のデブリードマン後の大きな傷に対しては、肉芽形成が促進され有利に働くと考えられる。

壊死性筋膜炎の致死率は約 20 ～ 40% と高く、HBO の併用でその致死率は低下するという報告が多くある。また、軟部組織感染症における HBO と抗生剤投与の併用で治癒期間が半分近く短縮したという報告もある。HBO の殺菌

作用、虚血の改善効果、創傷治癒の促進効果などが関与して、壊死性筋膜炎の致死率の低下や治癒期間の短縮につながった可能性がある。

【まとめ】

壊死性筋膜炎に対して HBO の補助療法を行い治癒した。HBO の殺菌作用、虚血の改善効果、創傷治癒の促進効果などから、壊死性筋膜炎に対する治療として有用と考えられた。